

令和7年度
学校関係者評価委員会議事録

1. 開催日時 令和7年6月7日(土) 午後2時55分～

2. 開催場所 中央医療技術専門学校 4号館2階 会議室
東京都葛飾区立石3丁目5番12号

3. 学校関係者評価委員定数 6名

4. 出席者 学校関係者評価委員

委員長	神田 吉也	：卒業生 (アサヒメデイカル株式会社顧問)
副委員長	伊丹 重貴	：学校運営に関する有識者 (株式会社トキワ薬品化工取締役社長)
委員	柳田 智	：関連教育機関関係者 (つくば国際大学医療保健学部診療放射線学科教授)
	平野 雄二	：臨床実習施設関係者 (筑波大学附属病院放射線部診療放射線技師長)
	菅 勝幸	：医療機器製造・販売関係者 (株式会社六濤東京営業所)
	福田 昌弘	：在校生保護者 (医療法人財団岩井医療財団岩井整形外科内科病院 検査部放射線技術科課長兼技師長)

内部評価委員会

委員長	横田 浩	(学校長)
委員	小川 雅之	(教務部長)
	加藤 広宣	(教務部参与)
	中島 正弘	(教務課長)
	河合 繁	(学生課長)
	池田 信昭	(学校総務課長：事務長)
	宮田 道夫	(法人事務局長)
	岸 千春	(法人事務局次長：財務担当)
理事長	森重 美三男	

5. 議 案

1. 令和6年度学校自己評価報告について
2. その他

6. 議事録署名人 菅 勝幸 福田 昌弘

7. 配布資料
1. 令和6年度 学校自己評価報告書
 2. 応募数と入学者推移
 3. 入学から卒業・国家試験合格の推移
 4. 国家試験合格率
 5. 自己評価ポイント比較率
 6. 過去5年間の収支（事業活動収支計算書より抜粋）
 7. 第29期事業報告書
 8. 当学の大学計画について
 9. 中央医療技術専門学校 HP アクセス分析

会議に先立ち森重理事長から挨拶があった。

【理事長挨拶要旨】

昨年度のこの委員会で、大学用地を取得したことを報告した。本日はその後の移転計画の進捗状況を、スライドを使用し説明する。

- ・大学計画の経過、大学進出の場所、大学開設計画の概要について説明があった。
- ・「中央医療技術専門学校」を大学に改編して横須賀へ移転する。
- ・現在の状況は、令和7年9月から改修工事を着工する予定である。
- ・10月に文部科学省に大学の設置認可申請をする予定である。
- ・専門学校は令和9年度入学生から募集停止し、令和11年3月に閉校する予定である。
- ・大学は令和9年4月から開学予定であり、令和9年度、10年度については、専門学校と大学が併設する形となる。
- ・大学の概要について、名称は「中央医療大学」（仮称）とする。
- ・医療科学学部の診療放射線学科の単科で開学し、1学年定員100名、4学年で400名の予定である。
- ・開学後に放射線技術学科を1学年定員40名、4学年160名で増設する予定である。2学科合計で定員560名の予定である。
- ・大学の特徴について、語学力、医療経営学を強化項目とし、学生だけでなく教員が憧れる魅力のある大学、この2点を大きな柱としたい。また、附属病院のない大学であるので地域協働、産官学連携を推進し、地域の病院・技師会との連携、YRP内の研究所との共同研究会などを実施したい。

本日は、令和6年度学校自己評価の結果が出ましたので、皆様にお集まりいただき評価をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。との挨拶があった。

その後、委員長は委員会成立事項報告を求めた。

学校関係者評価委員会成立事項報告（宮田道夫法人事務局長）

本日の委員会は、委員6名が全員出席しており、学校関係者評価委員会規程第7条1項に定める出席委員数を満たしており学校関係者評価委員会が成立することを報告する。本日は規程第8条により、委員以外の者に出席を求め意見を聞くということで、学校内部評価委員8名が同席をする。また、規程第10条には、委員会の事務は、本校の教務部において処理するとあるが、

本日は、法人事務局が担当する。議事録を作成するにあたり本会議の内容を録音するとの発言があり出席者全員がこれを承認した後、神田委員長に議事の進行を依頼した。

神田委員長が議長となり、議事録署名人に、菅勝幸委員と福田昌弘委員を指名し、両名が承諾し議事に入った。

議長は令和6年度学校自己評価報告について、まず内部評価委員の説明を受けて、その後、質疑応答等により学校関係者評価委員が評価することとした。またその方法として事前に各委員には令和6年度学校自己評価報告書が配布されていることから、重点的な事項や要点について評価項目ごとに内部評価委員に説明を求めた。

内部評価委員長（横田学校長）より、令和6年度学校自己評価報告の概要について説明があり、評価項目ごとに以下のとおり内部評価委員から説明があった。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 教育理念・教育目標 | 横田 浩（学校長） |
| 2. 学校運営 | 宮田 道夫（法人事務局長） |
| 3. 教育活動 | 中島 正弘（教務課長） |
| 4. 学修成果 | 中島 正弘（教務課長）、 |
| 5. 学生支援 | 河合 繁（学生課長） |
| 6. 教育環境 | 池田 信昭（学校総務課長：事務長） |
| 7. 学生募集と受け入れ | 横田 浩（学校長） |
| 8. 財務 | 岸 千春（法人事務局次長：財務担当） |
| 9. 法例等の遵守 | 小川 雅之（教務部長） |
| 10. 社会貢献 | 小川 雅之（教務部長） |
- ・配布資料「中央医療技術専門学校 HP アクセス分析」について
横田 浩（学校長）

議長は、評価項目ごとに質疑応答を求めた

【質疑応答】

1. 教育理念・教育目標について
2. 学校運営について

（質） 英語の授業は英会話教室NOVAより外国人講師を招いて、医療現場で使用する会話に重点を置いた授業を実施されているが、その評価と何学年時に実施しているのか。（神田）

（答） 授業実施は1年時だけである。前期15コマ後期15コマ、90分を30回実施している。これだけで会話ができるとは思わない。しかし、この前、実習生が外国人と話してみたら、結構通じたとの報告を受けた。それなりの効果は期待できると思う。（横田）

（質） 英語の試験は筆記試験なのか。（平野）

（答） その通りである。（横田）

（質） 現在は難しいと思うが、先ほど理事長の報告にもあったように、今後は語学力の教科が大事になってくる。英語の試験は各種あるので、大学になったら、学生に興味を持たせるような試験・授業を実施されてはどうか。（平野）

(答) 同感である。(横田)

ここで柳田委員が所用により中途退席するため、議長に許可を得て、一括質問することになった。

(質) 「2. 学校運営」の学則変更についての質問ですが、留年生の卒業率、国家試験の合格率はいかがか。(柳田)

(答) 今回の学則変更は、「1 学年 2 年間しかいられない。」を最終学年はもう 1 年延長できるようにしたものである。その実績はまだないので、後段の質問は回答できない。(横田)

(質) 「3. 教育活動」の入学前教育について、何か実施しているのか。(柳田)

(答) 進研ゼミの数学と物理の課題を動画付きで送って、実施させる。(横田)

(質) AI を利用してレポートを作成するなど、AI を利用するにあたり、制限等は設けているのか。(柳田)

(答) AI を利用してレポートを作成したとわかるようなものも実際にあるが、現状は制限していない。(中島)

(意見) 逆に、AI は利用してよいが、使い方を間違わないように私は指導している。授業アンケートについて、マークシートはあてにならないので、自由筆記が重要である。(柳田)

(質) 学生のコンピュータの取得率、利用率はどのくらいか。iPad で資料を写真で取る、メモをするなど、授業中に使用している学生の対応はどうしているのか。授業中にスマートフォンを開いているのと同じ状態にもなるので、制限しているのか否か、推奨しているのか否か。(柳田)

(答) 「推奨しているのか否か」に関しては、資料を Web 上に載せて見られるようになっているので、どちらかというと推奨している方に入る。制約もしていない。(中島)

(意見) 1 点だけお願いしたいことは、授業資料は SNS 等にアップしないように制限をすることである。(柳田)

(意見) 大学化するので、資金面で難しいとは思いますが、プロジェクターが見つらかったり、うまく接続できなかったり、整備が必要である。また、学生の届出書類の IT 化について、大学は履修届や欠席届など IT 化しているので、今後必要である。(柳田)

(質) 社会貢献について、ピンクリボン活動は実施しているか。(柳田)

(答) 昨年も質問があったが、対応できていない。(小川)

(意見) ピンクリボン活動は、履歴書に記入し就職に有利になるので、ぜひ実施する方向で検討願いたい。(柳田)

議長はここで、一括質問から、項目別の質疑に戻し、教育活動についての質疑を求めた。

3. 教育活動について

(質) 教育活動について、学生に授業アンケートを実施しているが、どの程度の意見があるのか、また、参考にしているのか。柳田委員からも意見があったが、自由筆記が本当の意見を述べたものなのか、授業アンケートなので留年にもかかわってくると思われるので、匿名にするとか、学生の意見を聴取出来ているか。また、教員はその意見を参考にしているのか。(福田)

(答) グーグルフォームで、匿名によるマークシートで実施している。また、自由記載欄を設けているので、学生の意見をそのまま教員に還元している。(小川)

4. 学修成果について

- (質) 就職率の向上が図られているかについて、国家試験合格が微妙な学生は、就職活動は事前にはできず、あるいは合格後の就職活動になる場合も想定できるが、その様な学生の対策はあるのか。(平野)
- (答) 就職活動できる基準を下げると国家試験合格できないリスクを伴う。学生には早めに活動するように指導している。(河合)
- (答) 単純にハードルを下げるのは反対である。ある程度卒業できるような点数に達している学生に対して、就職活動するよう指導している。(横田)

5. 学生支援について

- (質) 「近年の求人数は減少傾向にある。」とは、専門学校に特化したものであるか、大学も含めたものであるか。(平野)
- (答) 特に、大学、専門学校の区別はない。多いときは約500施設で1,000人程度の求人があった。昨年度の求人数は300弱の施設で600人強であった。また、紙ベースの求人ではなく、ホームページで求人する病院も増えてきている。学校に来る求人だけでなく、ホームページ等の求人情報も利用するよう指導している。(河合)
- (質) 就職の面接指導等はしているのか。(平野)
- (答) 面接指導、履歴書の書き方は理事長が指導している。(横田)

6. 教育環境について

- (意見) 先ほど財務の説明があり、厳しい財政の中で必要なものは揃えていかなければならない中で、現状のできる範囲内で整備されていると思う。また、医療機器について、必ずしも新品を購入する必要はない。使用できる中古機器があれば利用した方が良い。(菅)
- (質) Wi-Fi は各教室にあるのか。(神田)
- (答) 現状は教室にはない。導入していない要因は、13教室あるので各教室にアクセスポイントを置くには費用がかかりすぎる。しかし、LAN ケーブルは配置しているので、接続すれば個々のパソコンには対応できる。また、学生が勉強以外で使用してしまう恐れもある。新規の大学等はWi-Fi ありきだが、過渡期でもあるので慎重に考えたい。(池田)

7. 学生募集と受入れについて

- (質) 令和9年に大学の開学予定だが、パンフレット等、PRはしているのか。(柳田)
- (答) オープンキャンパスを実施する度、PRしている。(横田)
- (質) 夜間部は昨年から募集停止していて、昼間部は来年度に募集停止になるのか。(神田)
- (答) 今年度募集をして入学する、来年度の入学生が最後となる。(横田)
- (質) 最後の専門学校の卒業生、令和11年度卒業生は中央医療大学(仮称)に3年次編入できないのか。(平野)
- (答) 編入枠も定員に含まれるので、定員は100名で開学する予定である。(横田)

8. 財務について

- (質) 現在、医療機関の赤字、医師不足、人手不足と言われているが、ここ1、2年医療機

関に経営コンサルタントが入って、外部委託、コスト削減を実施している。以前より物・量が減ってきていて、世の中が資源循環に向いており、処理から再生・循環に回っていく。コスト削減と言われていても、医療機関の4割以上は赤字と言われている。その中で、今後、診療放射線技師はニーズとして期待されていくのか。18歳人口が減ってきているが、必要とされていくのか。エリアが東京から横須賀になる。交通の便が悪いという欠点はあるが、中核都市であり、人口、医療施設も多く、県立医療大学もある。ニーズがあるのであれば、どのように募集して、学生を増やしていくのかを考えていくべきである。(伊丹)

(答) 診療放射線技師は必要であり、検査数も増えている。ニーズはあると思う。ただし、養成校が都内に1校増加したことにより、厳しくなっている。どのように学生を集めるか。横須賀市にもニーズはあると思う。また、専門学校の指定校が約200校ある。偏差値50以上の高校なので、専門学校受験する学生は少なかったが、大学となれば、ある程度集まるのではないかと期待している。(横田)

(意見) 個人的観点から見ると、放射線技師の専門学校では厳しいのではないかと。放射線技師の需要のレベルが上がってきているので、技師としてだけではなく、技術的情報等を身に着けた技師が必要とされているのではないかと。(神田)

9. 法令等の遵守について

(答) 昨年も指摘があったが、今年度にセキュリティーポリシーを作成すること。(神田)

10. 社会貢献について

(質) 学生のボランティア活動の奨励、昨年の評価より支援のポイントが上がっているが、具体的に何を実施したのか。(福田)

(答) ボランティア活動があまりなかったため、多少、活動することができたことによりポイントを上げた。具体的な内容については、老人ホームへ骨密度の測定と講演を行ったこと、災害時の避難場所として、相互協定を結んでいる葛飾区と本田町会主催の火災訓練に学生3名が参加したことである。(小川)

(意見) 「社会貢献」の項目については、やればやるほど様々なものがあり、学校として「どこまで」という目安を諮りながら、社会貢献に協力する学校であってほしい。(神田)

以上の説明及び質疑応答の後、神田委員長の要請で、委員以外の学校関係者は退室し、学校関係者評価委員で総評に入った。纏まった総評を、神田委員長より学校側に述べた。

【神田委員長総評】

本日、内部評価委員会から報告を受けました。令和5年度もさまざまな制約があった中で、教職員の努力によって概ね良い運営がされていると評価します。

評価する点について、まずは、国家試験の合格率であります。一昨年が94.3%（新卒）、専門学校では自衛隊の養成校に次いで2番目で、専門学校としては実質1位であると考えます。また、昨年度の合格率は93.8%（新卒）でありました。高い合格率を維持することを期待したいと思います。

学問以外の点について、「就職時の面接指導の内容」が履歴書の書き方、面接の仕方など、学

問以外の部分における丁寧な指導で高度な内容であり、学校として高い評価に値します。また、近年問題となっているメンタルサポートを学校として学生に指導していることを評価いたします。学問以外の分野で学校として、今後も継続的に実施していただきたい。

低評価として、改善していただきたいことについて報告いたします。昨年度、指摘した事項について、今年度検討すると回答した課題が解決していない、前進していない。回答するという形が見えない点であります。このことについて、低評価といたします。来年からは、課題に取り組む経過や結果を報告していただきたいと思います。

以上が、学校関係者評価委員会の総評といたします。最後に、大学移行ということの報告を受けました。大学として、横須賀に移転するに当たっての問題は数多くあると思いますが、教職員が協力をして、開学を目指していただきたいと思います

委員長は、他に質疑の有無を諮ったが特になく、本日の学校関係者評価委員会を終了した旨を述べ午後5時12分に閉会した。

以 上

本議事録記載事項について、正確であることを証するため委員長及び議事録署名人は各署名する。

令和7年6月7日

委員長 氏 名

議事録署名人 氏 名

議事録署名人 氏 名

以 上